

# 工場ルポ

「小さくても全てに一流の企業になりたい」。創業後、それを合言葉に精密プラ型メーカーとしての地歩を固めてきた藤本精機。現在9名ながら大手一流メーカーと直接取引するなどその理念を着実に実践している。

創業は昭和47年。藤本正敏社長が友人の会社でプラ型を見て「これだ」と思い、その会社に入社。3年間は営業技術的な仕事に従事し、独立した。当時はまだ高度成長期。「とにかく良い金型を出し続けることで仕事が生事と呼んでくれる感じだった」という。

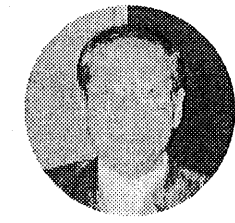
## 設計力の強化を

### 人材育成と集中リスクの分散

「とにかく良い金型を出し続けることで仕事が生事と呼んでくれる感じだった」という。

も、製品が安定するためには複数の金型に分けるよう直言する。「顧客要求は当然だが、品質要求をつかむことがより重要だ」という。

その考えは人材採用にも反映させ、20代の人を採用品「失敗を恐れず何でも経験させた」という。先手を打った人材の育成と集中リスクの分散。



藤本社長

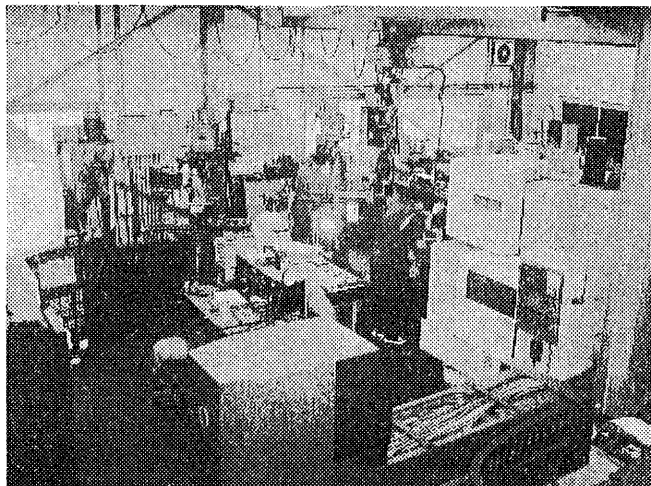
そうした姿勢が認められ、バブル前にはオーディオ関係のユーザーと直接取引をし、売り上げも9割を占めるまでに入り込んでいた。しかし危

なると、そこで仕事の幅を広げるとともに「当時2000万円以上するCAMを導入した」。バブル後、携帯関連が7割以上占めていたのが、現在の携帯4割、自動車関連部品6割までになっ

た。現在成形機サイズで30〜50t、大物で200〜300tを手がける。また昨年には、メーカー系列の金型メーカーの廃業に伴い、業務を引き継ぐとともに人材も引き

- ▽本社 神奈川県川崎市高津区北見方2-10-15
- ▽電話 044-811-0151
- ▽従業員 9名
- ▽代表取締役 藤本正敏氏

【会社メモ】



工場

若い人材を中心に「一流の製作所など」、NCフライス1台(牧野フライス)、型彫放電加工機2

台(牧野フライス)、ワックプロダクツ、倉敷機イヤー放電加工機1台(三菱電機)など。

## 藤本精機

神奈川県

【主要設備】 CAD、CAM5台(グラフィックプロダクツ、倉敷機イヤー放電加工機1台(三菱電機)など)。